

のアルバム

▼ 12月10日 市民活動支援センターホール



ビワマス遡上の復活を目指して

家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト（山本義昭代表）がビワマスフォーラム「しが・野洲の森川里湖のつながりを取り戻せ！」を開催し、約120人が参加しました。

同プロジェクトは、琵琶湖固有種であるビワマスが激減していることから、琵琶湖からの遡上や産卵、繁殖ができる河川環境を取り戻そうと結成され、10月には、より上流へ遡上が可能となるよう魚道の設置と産卵に適した河床づくりを行っています。

このフォーラムを通して自然環境の保全と再生を学ぶ1日となりました。

ビワマス（あめのいお）ご飯は好評で、皆さん美味しく食べていました。

自然の美しさに癒されます

押し花サークルカトレアは、講師の門脇厚子さんと、生徒4人で活動されており、見本に頼らず、それぞれの感性を大切にして押し花作品を作っています。

植物の本来持つ色を大切にし、着色を行わないことも特徴で、門脇さんは「命を扱わせてもらっている。色の経年変化もその表れです。」と語っていました。

また、10月には、野洲市の花で製作した「市章」を寄贈していただきました。

押し花の魅力を多くの人に伝える素敵な作品を楽しみにしています。



▼ 12月1日 コミセンしのはら



▼ 12月1日 市役所



見事！！日本記録！！水泳界のエース

第16回全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会10月22日～24日開催）において、福井香澄さん（小篠原）が水泳競技の自由形で2年連続大会新記録（50m 29秒56※日本記録）で優勝し、11月4日にはその記録を称えられ、滋賀県民スポーツ大賞「若鮎賞」を受賞されました。

これらの報告のため、市長を訪問した福井さんは、今後の目標を尋ねられると、「背泳ぎで日本新記録を更新したい。」と、次のステージを見据えていました。

これからの水泳界を牽引する存在として、更なる活躍を期待します。

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

あざ 人名墨書「砦」から辿る歴史

昨年秋に一部報道された西河原森ノ内遺跡出土の奈良時代後半から平安時代初期（8世紀後半～9世紀初頭）の墨書土器には人名と思われる「砦」が記されていました。隣接する西河原遺跡で出土例がある「砦万□(呂カ)」（あざまろカ）と同じ人名の一部とみられています。

日本史上で「砦」に関係する人名といえば、「伊治公砦麻呂」という人物が続日本紀に登場します。彼は蝦夷に出自をもつ陸奥国伊治郡大領でありましたが、宝亀11(780)年に伊治城にて反乱を起こし、陸奥国按察使紀広純と牡鹿郡大領道嶋大盾を殺害したとされるものです。これは当時、中央政権が東北支配の拡大を推し進める中で起こっていた蝦夷戦争の一つで多賀城も落ちるなど、宝亀の乱として歴史に刻まれています。この時期の戦いは俗に38年戦争ともよばれ、終結したのは平安時代初期(812年)とされています。中央政権と蝦夷(東北勢力)の戦いは、少なくとも古墳時代には既に認められており、長期間にわたって抗争を繰り返してきました。この後も東北は安倍氏、清原氏そして奥州藤原氏が台頭するなど、中央政権にとって完全支配は叶わず、とくに奥州藤原氏は中央からの国司を受け入れるなどして協力する姿勢を一貫してとることで、事実上の東北支配を容認させていたと考えられています。奥州藤原氏の三代およそ百年にわたる栄華は、関東武士団の棟梁源頼朝の奥州征討によって潰えることとなり、ここに中央政権による東北支配がようやく成し遂げられたとされます。

今回は、西河原森ノ内遺跡で出土した墨書土器の一文「砦」から「あざまろ」を辿り、東北の歴史の一端を掻い摘んで紹介させていただきました。

(博物館主事 山田謙吾)



西河原
森ノ内遺跡
出土
墨書土器



利用者の気持ちになって！

滋賀県造園協会南地区守山野洲支部（11社）の皆さんで野洲川斎苑内にある生垣と低木の剪定ボランティア活動が行われました。

同支部は、開苑以来、人生終焉の場にふさわしい景観となることを願って毎年このボランティア作業を実施されています。

▼ 11月17日 野洲川斎苑



市のスポーツ発展に貢献

小川久和さん（小比江）が「生涯スポーツ功労者」として、文部科学省から表彰を受けました。

文部科学省では、長年に渡り、地域スポーツの普及と発展に貢献してきた人を表彰しています。

小川さんは長年、スポーツ推進委員やバレーボール協会理事長などを務められ野洲市のスポーツ振興と発展に力を注いでこられました。

市では、誰もが気軽に楽しくスポーツができる生涯スポーツの実現を目指します。

▼ 11月7日 市役所

